

えんちょう日記 第10回

「季節はずれの朝顔」 ～すみれ組さん～

令和7年 11月 18日

すみれ組のベランダでは、プランターで育てた『朝顔』を見ることができます。朝顔は“夏”を代表する花のイメージをもってしまいがちですが、こうして季節が変わっても可愛い花を見ることができるのは嬉しいことです。

子ども達や担任の先生から、朝顔を栽培することになったきっかけや、大切にお世話をしている様子、今も興味をもって続けていることについて話を聞かせてもらいました。

すみれ組さんの“ほっこりエピソード”どうぞご覧ください。



～園庭の花壇～
(9月・種の収穫)

朝顔が咲き終わると、たくさんの種をつけました。

この種を収穫していると、子どもから「この種を植えてみたい!」という気持ちが湧いてきました。

このことが、すみれ組で栽培を始めることになったきっかけになりました。



～2階ベランダでの栽培～
(9月終わり頃・プランターに種まき)

よく観察できるように、保育室から近いベランダで栽培することになり、担任の先生が用意したふかふか土のベットのプランターに種をまきました。初めて発芽した様子を見つけたときは大喜びで、子ども同士で嬉しさを伝え合う姿がありました。

スクスクと生長していく過程を見ることが、子どもたちの日課となり、水やりを忘れずに行っていたそうです。伸びていく“つる”には支柱をたてなくても、ベランダの柵がよい役割をしてくれました。巻き付きながら高くてたくく伸びていきました。



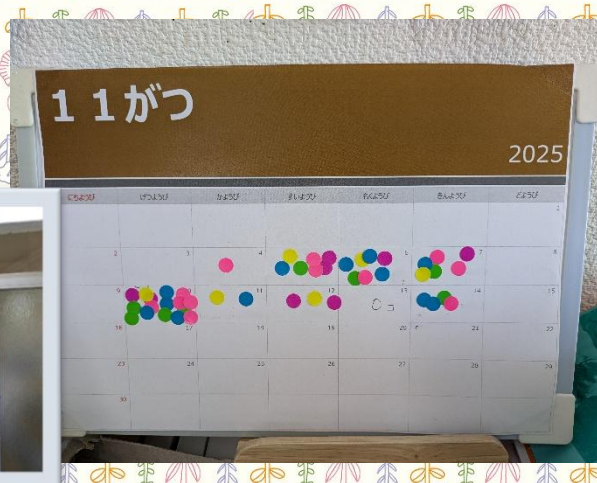


～朝顔の開花～

(楽しみな記録)

水色・ピンク・白と淡くてやさしい色の朝顔が咲いています。私がクラスを通ると「今日はピンクが2つだよ!」と、嬉しそうに開花したことを知らせてくれる子どもたちです。

毎日、開花した朝顔を数える様子を見ながら、担任の先生は、自分たちで花の数を記録できるカレンダーがあるといいなと思いつきました。カレンダーには、咲いた数をシールで貼るようになっていて視覚的にもよく分かります。みんなで楽しみを共有できるものになりました。



『千日紅』も種から育てました



ベランダには、新たな“種”が植えてありました。
これからの生長が楽しみです。



こどもから始まる みどりから始まる

～生きる根っこを育む保育～

